

博士論文・修士論文・卒業研究題目一覧

博士論文

課程博士

中国学専攻

張 三 妮 植民地台湾・朝鮮漢文教育形成過程の研究

修士論文

国文学専攻

浦 野 賢 太 村上春樹「ノルウェイの森」及び「納屋を焼く」の比較研究―映画と小説テクストをめぐって―

趙 越 谷崎潤一郎と「夢判断」―谷崎文学におけるフロイトの受容

鄭 婕 夏目漱石と魯迅 ―『それから』と『傷逝』を中心に―

王 夢 潔 桐野夏生の『OUT』における女性たちの境遇  
郭 楷 文 太宰治「人間失格」の小説と映画 ―原作小説の

上 出 大 河 映画化作品はどのように受容されるのか―  
植民地期台湾における日本語台湾方言に関する研究 ― 植民地期台湾と現代台湾系日本語学習者の言語運用の対照を主として―

篠 原 治 哉 単音節接尾辞〈ゴ〉ならびに〈ボ〉について

杉 浦 楓 太 澁澤龍彦と唐十郎―「犬狼都市（キヌノポリス）」と「盲導犬」「唐版・犬狼都市」の比較を中心に

蘇 暢 林語堂〈Momentum Peking〉と日本語訳『北京の日』の比較研究

鄭 成 程 日中二次元文化から見る新語・流行語の発展  
林 直 輝 古代日本人の嗅覚 ―その感性と表現の展開―

中国学専攻

柳 田 賢 李滉 退溪の朱子学理解―図説が果たした役割―  
成 月 璇 「本朝無題詩」における白楽天の諷諭詩の受容について

汪 晨 茜 金庸小説における女性観の変遷について  
大 森 幹 太 北宋士大夫における「性」説論議の場の共有と分化―王安石「性」論と道学―

黄 静 茹 『聊齋志異』の恋愛物語 ―「才子佳人小説」の系譜として―

史 磊 中国古典籍日本関係記事の集録に関する書誌学的考察 ―江戸時代を中心に―

永田 小絵 中国宋代知識人が形象化する人生像 ―朱熹『小学』をてがかりに―

山田 幸奈 張衡「應閭」の典故表現

## 卒業研究

※学科別、指導教員名の五十音順

## 国文学

### 足立 元専任講師

河内 彩友美 「アイドル育成ゲーム」のビジネス展開と未来まで

木村 淳人 富野由悠季アニメの研究

幸坂 海斗 日本と海外におけるサーフィン文化の違い、サーフィンとは人々の心の薬となるのか

島地 玲 神社と祭り

二瓶 舞 メシアン音楽の知名度と作品理解について

磯部 春香 〈論文〉近現代日本における女性の困難 ―売買

作〉映像作品「イノセント・ブルー」

猪口 友香 神話と創作物の関係性

柏 沙織 創造された生命の性について

熊谷 彩 文章から読み取る日本文化及び海外文化との比較

田崎 実穂 インターネット創作物におけるホラーとグロテスク

### 荒井 裕樹准教授

(野元 瑞生 図書館体系(創作))

赤城 寧々 エモいに対する認識の分類と今後についての考察

東 蒼大 宇佐見りん『推し、燃ゆ』文芸評論

荒井 晶穂 八月に捧ぐ午前二時と肝臓(創作)

有田 愛美 大前栗生「ぬいぐるみとしゃべる人はやさしい」論 ―やさしいの生きづらさについて―

飯沼 太一 筒井康隆『虚人たち』論

浦岡 美佳 裸のまんじゅう(創作)

塩原 恭佑 『「また必ず会おう」と誰もが言った。』論

鈴木 芽依海 卒業制作『桂花樹』

渡辺 菜々子 七月生まれの桜(創作)

大谷 美尋 乙一の野望とライトノベルの拡大

岡 みなみ 唯川恵『啼かない鳥は空に溺れる』にみる毒母と娘

関谷 春香 三国美千子「いかれころ」における結婚制度 ―現代人にとって結婚は何を意味するのか―

二階堂 千翼 「もしも太宰治『人間失格』の主人公・大庭葉蔵が、『嫌われる勇氣』を読んだら」

深澤 慧 小説「誰が青を忘れたか」の執筆

森谷 優香 朝井リョウ『何者』論 ―登場人物の「怒り」について―

大藏 教義特任講師

志村 夏美 幕末・明治期における劇界の発展と変遷

内藤 康人 狂言の発生 〈影響と将来〉

長島 風奈 狂言と私

中ノ瀬 彩佳 狂言と歌舞伎「松羽目物」

守屋 芽生 能楽装束と文様について

小柳 光瑠 能楽初心者ブック

矢代 稜 椰 女性役について

沖森 卓也教授

阿久津 実里 『古事記』の成立と受容変化

佐々木 純 汰 万葉集における生き物の描かれ方

武田 由 夏 神の死の変遷

寺井 あかね 古事記上巻における世界観 〈異界を中心に〉

中野 愛梨沙 イザナミの〈死〉 〈何故イザナミは「神避る」となったのか〉

森田 晃平 『古事記』三種の神器の在り方

安齋 綺良々 万葉集と詩経から比較する感情表現

大柴 亜美 『古事記』と『日本書紀』からみる国生み神話

堀切 舜 ヤマトタケル像の変遷 ――その限界と可能性に

関する一考察 ――

山口 美月 ツクヨミノミコトの記載について 〈古事記と日

本書紀を比較して〉

行元 立樹 天照大御神「古事記」

五井 信教授

武石 大雅 田山花袋『蒲団』における近現代の情勢からみる

読者論

松澤 知也 吉里吉里人 ―「性」のユートピアを越えて

稲 友利絵 故郷・葛飾柴又の舞台性 ―『男はつらいよ』を

めぐって

宇野 琴美 瀧井孝作『無限抱擁』から見る遊女の生活

岡島 桜子 「堕ちる」とはなにか

清田 翔 少年少女、ゲイとキツン

塩澤 優夏 「避妊」の表現と「新しい男と女」 ―森しげ

『波瀾』を中心に―

萩原 乃亜 孤独と愛『草の花』

宮崎 雄誠 「父殺し」の行く末

朝生 成美 『焼肉ドラゴン』から見る在日韓国・朝鮮人のア

イデンティティ性

石田 紘一朗 村上春樹「ノルウェイの森」論

佐藤 直輝 その文学世界に住まう神々 〈坂口安吾の世界〉

鈴木 晴 宮沢賢治の小説をめぐって ―猫と賢治―

竹浪 奈歌子 『砂漠』論

角田 千弘 探偵小説におけるホモソーシャルと恋愛

福山 優生 ドグラ・マグラが施す「認識」と「構成」の幻魔術

芳之内 優花 芸能演劇から見る「殺陣」論

小山 聡子教授

池田 優女 古代・中世における怪異としての慧星

池田 稜弥 差別観により嘔う者と嘔われる者

今井 佳菜 仏教からみる女性と蛇の関係

蛭原 菜々美 平安時代における葬送の研究

大内 奈那 古代・中世における夢観念とその変容―仏教と夢

大峽 凜 「源氏物語」六条御息所論―六条御息所の「源氏物語」作中における役割―

佐野 義知 日本における葬送 古代・中古を中心に

酢崎 未悠 桃の呪術性と桃太郎 ―呪力から食用へ―

中田 智貴 相撲節が開催された期日と相撲人

益岡 春和 呪術的に使用された弓矢について―鳴弦は穢れを

祓ったのか

渡辺 航平 中世における天狗像の変容とその要因について

桑原 侑生 土蜘蛛像の成立の変容

根田 京佳 時代により変遷する人と犬の関係性

下林 千尋 平安時代における結果について

関塚 朝香 陰陽道の式神について

迫田 幸栄准教授

磯貝 剛太 現代日本語における「自分」をめぐる ―一人

喜村 美沙

称代名詞の使用を中心に―  
恩恵性を帯びる「くれる」における皮肉表現について ―「くれる」と「もらう」との使い分けについて―  
―「くれる」と「もらう」との使い分けについて―

佐藤 海

副詞用法と感動詞の用法の比較 ―副詞「もう」「ちょっと」「まったく」を対象に―

諏訪 拓己

現代日本語における「大丈夫」の使用をめぐる―  
―若者ことばを中心に―

中村 千春

文末表現「〜と思う」について ―モダリティ―  
の観点から―

長谷川 凌

日本語における感情形容詞の位置付けをめぐる―  
―「好き(な)」「嫌い(な)」を中心に―

二木 潤

現代日本語における病気や体の不調を表す際に使用される表現について ―「わずらう」と「かかる」を中心に―

柳田 倅輝

一般的受身と慣用的受身の性質の違いについて  
―「つられる」「うたれる」「かられる」を中心に―

米川 優暢

接続詞「から」と「ので」の使用をめぐる―  
―複文の分析を中心に―

塩沢 一平教授

飯川 拓海 マカロニえんぴつつの歌詞分析

後藤 恒心 新海誠作品から見る万葉集のアニメ化への可能性

新塘 裕菜 Backnumberの恋愛観

妹尾 光夏 星野源の楽曲の歌詞分析

千葉 有紗 宇多田ヒカルと万葉集

飛嶋 菜々子 YOASOBIから考える若者を魅了する音楽

中島 綾香 日本語ラップの歴史

能勢 美咲 斎藤壮馬の歌詞分析から「そまみ」を引き出す

小山 阜介 日韓での音楽文化の違い ― 両国のアイドルから見るK-POPの発展 ―

福田 汰成 高校野球応援からみる「時代とともに変化する流行」

船山 菜々子 古代から伝わる藍色

宮崎 玲於 現在までの中学古典教育の変遷と、現行の中学古典教育の問題に関する考察

山田 千夏 シーン別に見る古代食とその実食

金田 佳乃 東京事変『修羅場』の存在

白井 茉弥 The Brow Beatから見るRyujiの死生観

津田 彩花 Creepy Nutsが愛される理由

宮下 善大 能楽と健康能楽

山内 なつみ J-POPにおける英語の使用について

山口 未蘭 万葉の夢歌の分析及び現代のJ-POPとの比較から見る万葉人と夢

吉田 清美 化粧文化史の変遷をたどる ― 誰のために粧うのか ―

塩田 今日子教授

木村 桃乃 『 소설 도쿄』より 최재가 매물에 주의하세요의 日本語訳

山崎 瞳 나는 나로 살기로 했다의 翻訳

荒井 瞳子 『 단 하루도 너를 사랑하지 않던 날이었다』

石栗 乃彩 韓国文学 『 초급 한국어』 翻訳

佐藤 栞 韓国長編小説 프리즘의 日本語訳

村本 愛海 『 나는 내가 잘못이면 좋겠다』 日本語訳

田中 麻衣 애 쓰지 않고 편안하게의 翻訳

丹羽 麻夏 그렇게 말해줘서 고마워 『 그렇게 말해줘서 고마워』가とう。

市川 瑞姫 너와 함께라면 흔들리는 순간조차 사랑이겠지의 翻訳

齋藤 美紗樹 エッセ이 『 솔직히 말하자면 괜찮지 않아』의 翻訳

佐藤 帆華 平凡に生きたくて一生懸命生きている

千澤 泰知 『 마지막 순간에 믿지 마라』의 翻訳

秦 日向子 『 영직의 영희씨』 翻訳

石崎 真帆 『 어린이라는 세계』 翻訳

石原 桃子 달리구트 꿈백화점 日本語訳

伊藤 久瑠美 『 우리가 너를 몰랐지만 인생을 몰랐나』의 翻訳

大迫 萌々奈 『 목욕탕』 翻訳

川野 桃佳 『 산책을 즐기는 시간』 翻訳

小林 桃夏 SEVENTEEN의 楽曲의 歌詞 翻訳

小林 幸枝 천선란 『천개의 사랑』

林 成美 < 귀문 고등학교 > 『한 발의 춤자』 < 鬼門高等学校ミステリー事件日誌 >

『一発の銃声』

島田 泰子教授

高橋 和夫 カ行動詞にみるカス型動詞

萩原 美帆 接尾辞「ばい」について

村田 彩 今日『Twitter』における「くない」の使用方法について

市澤 明日香 「鬼」の副詞的使用について

岩佐 初音 「映える」の今日的受容について

嶋村 佳織 「非動詞性名詞」と「できる」について

鈴木 えりか 疊語「早々」の含意分析

谷藤 涼音 類義語へなめる（ねぶる）の相違点

辻本 万葉 「くてもらう」「くっていたく」文の用法 ― 対話を中心に ―

宮下 夏実 「破天荒」の語義について

熊谷 めぐみ 「絶対くそう」構文の構造について

佐藤 美紀 北海道・東北弁の「く(ら)サル」について

但木 琴恵 女性アイドルの楽曲における「僕」の使用について

東峰 彩樹 接客表現「よろしかったでしょうか」について

藤井 菜緒 判断性の接尾語「くさい」「らしい」を巡って

白井 雅彦特任講師

岩井 柚樹 『本朝桜陰比事』研究

笹島 成美 喜多川歌麿の謎絵と寛政の改革の影響

菅賀 大司 剣豪の実像と虚像 ―ト伝、一刀斎、武蔵、宗矩・十兵衛―

中島 桃香 安政五年コレラ流行事情 付・『安政千秋頃痢流行記』緒方洪庵『虎狼痢治準』翻刻と訳注

相澤 菜央 悪役としての崇徳天皇 ―『雨月物語』『白峯』と歌舞伎『貞操花鳥羽恋塚』を中心に―

鎌田 杏香 江戸四宿の役割について

渡部 茉衣 『好色一代女』について

五月女 肇志教授

山田 萌恵 『宇治拾遺物語』「一条摂政歌の事」について

伊藤 和馬 『平家物語』長門本研究

稲田 千暁 紀貫之 ―和歌における花の役割―

馬屋原 大和 覚一本「平家物語」における建礼門院像

大塚 麗美 『古今和歌集』と『高野切』

小笠原 夢菜 学校教育に古典を取り入れる意義と可能性―『徒然草』を中心に―

金澤 風紗 紀貫之論

河野 真優子 素性の和歌は現代人の心にも響くのか

佐藤 潤弥 『万葉集』における人麻呂の死 ―鴨山五首を見

て、

篠原大成 蟬丸とは

神保友香 小野小町研究

田嶋雅 西行研究

辻井七海 結婚、恋愛、生殖の過去と現在 〔源氏物語の世

界を中心にして〕

手塚和女 定家本「若紫」と大島本「若紫」の比較研究

林拓哉 崇徳院の人物像

宮本千穂 『百人一首』と『百人秀歌』の比較

山口遥 百人一首論

吉田祐介 西行法師の誕生 〔出家とその理由〕

吉村幸音 『伊勢物語』における恋愛の「別れ」

出町愛実 赤染衛門の良妻賢母像

平田ひかり 伊勢の和歌表現から見る恋情と景色の繋がり

瀧田 浩教授

岡村拓馬 夜は短し歩けよ乙女 〔固有名詞からみる御都合

主義な物語〕

須田智大 三遊亭小円太「芝浜の皮財布」論 〔人情哢と

しての構造〕

田中真生 里見葺「かね」論 〔他吉が「生きた」こと〕

弘中智恵 江戸川乱歩「石榴」論 〔読者が騙される構造〕

金丸貴一 別役実「愛のサーカス」論 〔世界に立ち向かう

姿

工藤聖夜 村田沙耶香「孵化」研究 〔分節化の語りをめ

ぐって〕

篠田一真 芥川龍之介「青年と死と」論 〔Aの思想の変

化と目的〕

田中桃佳 武者小路実篤「世間知らず」論 〔作者の滲出を思

わせる語りの技巧〕

堀越美里 光用千春「コスモス」論 〔物語の主題を巡って

渡邊瑛斗 村上春樹「納屋を焼く」論 〔三人の出会い、一

人の狙い〕

高橋美瑞希 島尾敏雄「家の中」論 〔語り手が示すもの

新免茂樹 坪田信貴「学年ビリのギャルが1年で偏差値を40

上げて慶應大学に現役合格した話」論 〔「鼓

舞」する語りの構造〕

中川 桂教授

篠崎紀子 江戸の異性装 〔芸能の影響〕

高橋若葉 大豆製発酵食品から考える江戸時代の健康食

山田涼輔 江戸時代における娯楽としての妖怪文化について

阿部菜摘 江戸の大衆芸能と町人

勝又菜々子 江戸時代のお菓子

鮭川幸太郎 江戸の世話狂言と狂言作者について

平野果鈴 江戸の湯治文化

長島 弘明特別招聘教授

岡田 新美 西鶴作品に見る夫婦と家族

中所 宜夫特任教授

大辻 朗 広 仕舞「難波」と能「葵上」の解説

金塚 永 愛 仕舞「菊慈童」と能「葵上」の解説

小泉 舞 仕舞「春日龍神」と能「葵上」の解説

畠 中 美 優 仕舞「屋島」と能「葵上」の解説

平野 雄 大 人に非ざる者を演じる時、その心は人か物の怪か

室 那 実 仕舞「田村キリ」と能「葵上」の解説

伊藤 菜都美 仕舞「蟬丸」と能「葵上」の解説

鈴木 七 海 仕舞「清経キリ」と能「葵上」の解説

田中 柚 早 仕舞「班女舞アト」と能「葵上」の解説

中谷 いずみ准教授

笠原 夢 叶 『少年の日の思い出』をどのようにして授業展開

していくか、語り手に対する読解の深まりと心

情の変化、

菊地 未 紗 宝塚歌劇団の歴史と作品分析

黒澤 柚 葉 パーナード・シヨアの「ピグマリオン」から考察

する女性のあり方、イライザが示唆する女性の

可能性について

坂口 那 奈 デイズニープリンセス「シンデレラ」における

ジェンダー観の変化、プリンセス物語が人々に与える影響、

篠田 辰 海 伊坂幸太郎『ゴールデンランバー』論

鈴木 雄 大 『ワイルドスピード』シリーズの成功の要因

中村 優 花 『推定少女』における少女について

成田 美 月 恩田陸「蛇行する川のはとり」における少女時代の

あり方と70年代少女漫画との関連性

藤本 恵 伍 『SPIDER - MAN』『AMIZING SPIDER -

MAN』における作品分析——字幕と吹き替え

の違いを中心に

松永 紗 英 「春琴抄」を中心に考える谷崎作品の女性が支配

されているという可能性

山縣 柚 香 三島由紀夫「橋づくし」

山口 佳 月 『万引き家族』に描かれる家族の表象

「グリーンブック」から見る人種差別

山下 和 馬 夏目漱石「こころ」

山本 美 果 川端康成『眠れる美女』における川端康成の女性

観、女性の「幼さ」への川端康成の執着について

鷹野 朝 葉 「羊たちの沈黙」における羊と虐待について

児童文学の持つ影響力

堀尾 優 花 ブロードウェイミュージカル「RENT」における

LGBT

目黒 優 希 『三四郎』美禰子から考える漱石的「新しい女」



のヒロインについて

林 英一専任講師

本間 郁海 日本のアジア・太平洋戦争期におけるプロパガン

ダ―国策誌「写真週報」を用いて―

草間 麗 雑誌『日本語』が明らかにした日本語教育の実態

―戦前の国語教育と日本語教育の問題について―

林 謙太郎教授

田波 杏 音が入れかわる言い間違いについて

石村 明日香 2021年コミュニケーションに関する本のベストセラーについて

伊藤 瑠南 ヒップホップ・ミュージックにおける大衆の受容

と女性に関する問題的側面について

大須賀 千絵 日本語とジェンダー ―日本語や英語におけることばの性差とその歴史―

木川 将吾 「Undertale」における戦闘コマンドのひとつ

「MERCY」の日本語訳が「みのがす」であることについての考察

栗沢 萌加 ベトナム語母語話者の日本語学習における困難点

関場 理紗 マンガ翻訳 ―手書き文字に着目した差

野口 亜梨沙 葛西善蔵「遊動円木」浪子夫人の呼称について

濱田 菜々子 『星の王子さま』における想定読者の違いによる

日本語翻訳の差異

本間 典穂 形容詞「かわいい」の研究

森口 凜 含意の発生条件

和田 剛毅 新型コロナウイルス感染症禍における男女の恋愛

実態

大久保 優衣 配慮表現とコミュニケーション

大場 統希光 『ガンダム Gのレコンギスタ』論

菊池 真子 第四次韓流ブーム到来、韓国ドラマの魅力とは

佐藤 爽太郎 米国の鉄道が発達しなかった理由 ―求められる

輸送体系―

竹倉 日奈 モーニング娘。楽曲歌詞分析 ―初期から現在ま

での変化―

馬場 杏奈 「思いやり」の意味分析 ―日本人の価値観の観

点から―

渡邊 瑞季 「すぐく」を意味する副詞の変化

原 由来恵教授

足利谷 凌 学習指導要領における「伝統」と「文化」につい

て

安部 修斗 万葉集、方言から見る愛情表現

奥中 志音 清少納言と紫式部の違い ―それぞれの充足・非

充足の美にたくされたもの―

小松 紫羅 『枕草子』から読み解く中宮定子―中宮定子の人

物像

近藤 紀佳 藤原道雅 〔荒三位と呼ばれた男〕

佐藤 朱音 平安女性の生き方 ―教育という観点から―

佐藤 瑞紀 『源氏物語』理想化される「紫のゆかり」 〔桐壺更衣への思慕の側面から〕

佐野 愛梨 藤原道綱母の贈答歌に託した思い

椎津 春紀 学校教育における伊勢物語

諏訪 開飛 『源氏物語』における脇役 惟光の特異性

藤井 愛莉 『源氏物語』拒む女の心理 〔光源氏と空蟬の心境〕

松永 滯 教材としての『伊勢物語』 〔「初冠」「東下り」に見る可能性〕

森川 未悠 「浦島太郎」と他文学作品の関連性

吉川 玲奈 『源氏物語』六条御息所の人物像 ―光源氏との関係性から考察―

石川 結衣 藤原定子の〈未練〉―中宮と皇后になった女性―

西 潤輝 春のあけぼのに浮かぶ真実

横田 萌那 「恋」のできない女性たち

吉村 理紗子 皇后定子の文学史への影響 ―中古文学史という視座―

笹川 舜也 『源氏物語』「夕顔」巻における「ながししの院」の機能

増田 裕美子教授

藤 生梨 央 金銭のもたらす縁の執着について／『道草』

畑 中想世 名前の無い猫 ―吾輩の求めた名前とは何か―

伊勢 千智 夏目漱石『こころ』に表れる欧米文化の受容について

菊池 梨緒 『虞美人草』における『ハムレット』の受容と悲劇について

栗原 和花 物語中にみられる鏡の存在

松浦 史子准教授

田 中美紗樹 越劇と宝塚歌劇の比較 ―その歴史と、ふたつの文化が担う役割を中心に―

御園生 岬 中国サッカーに関する研究 ―サッカー文化の発展とレベルアップのために―

上杉 万葉 『霸王別姫』について ―中国近代の歴史・思想との関わりを中心に―

山崎 瑠莉 九尾狐の伝来とイメージ変化

森野 崇教授

大森 悠暉 接尾語「み」の用法拡張に関する研究 ―「つらみ」や「モフみ」をめぐる―

郷司 恭平 「適当」の意味の変遷 ―近現代文学を対象に―

井田 優 商品名における濁音、半濁音の効果について

- 大森 仁子 女性の言葉遣いについて
- 木本 有輝人 若者言葉の変化について
- 越 愛瑛 ジブリ映画における呼称について
- 佐々木 紀 充 少年漫画における技名の効果について
- 前原 花 奏 非言語コミュニケーション ｝性別・母国語の違いによる特徴 ｝
- 山下 拓 都 映画のキャッチコピーから紐解く現代日本人の興味・関心の惹き方
- 山本 香葉子 魚沼方言について
- 岩 船 愛 実 少女マンガの言葉遣いの変化
- 大野 莉 央 若者言葉「やばい」について
- 小林 美紗都 ゲームの一人称から考える「私」
- 山 壽 紗 弥 助詞「たり」について
- 松本 竜 弥 言葉の意味変化をめぐる研究 ｝「煮詰まる」「役不足」「確信犯」の場合 ｝
- 山口 直孝教授
- 小久保 駿太郎 『神聖喜劇』解釈の前提としての国体論と治安維持法 —— 観念的死と実践的新生
- 木村 洸 之 『復興期の精神』論 —— 花田清輝にとつてのルネサンスを考える ——
- 塚本 大 大江健三郎「不意の啞」論 —— 初期短編における「孤独」と「暴力」の関係性について ——
- 横 晃 暉 『虐殺器官』の世界観
- 村松 和 小栗虫太郎「黒死館殺人事件」 —— その銜学趣味と探偵の姿 ——
- 諸星 夏 海 江戸川乱歩『黒蜥蜴』論 —— 女賊黒蜥蜴の「ゆめ」 ——
- 安井 正 聡 ファンタジーホラーとしての恒川光太郎『夜市』 —— 「懐かしさ」の源泉とその影響圏 ——
- 石野 真 愛 『破戒』論 —— 被差別部落文学としての達成と限界
- 木村 陽 菜 志賀直哉「范の犯罪」論 —— 現実に即した心理描写の読み
- 田村 有 理 東野圭吾『真夏の方程式』の多面性 —— 探偵小説・家族・未成年犯罪
- 中村 純 董 江戸川乱歩「明智小五郎事件簿」考 —— 乱歩の探偵小説の世界
- 府川 友 香 国木田独歩「春の鳥」論 —— 「私」が語る「自然の児」
- 松本 創 太 三島由紀夫『絹と明察』論 —— 「帰郷」の行方 ——
- 小谷野 岳 夢野久作論 —— 「狂気」と「正常」の狭間

## 中国文学

市来 津由彦特別招聘教授

鴻池 はな 論語と朱子学の「孔子」——顔回、子貢の像——

田中 克 侑 弓術から弓道へ——弓道における禪的思考を中心  
に——

田野倉 大 志 朱熹の学問観・人間観——大学章句を中心とし  
て——

中坪 瑛 葉 戦後の日本文学と魯迅の文学活動

市木 櫻 子 横井小楠の公の思想と元田永孚の開国論

伊藤 晋太郎教授

遠藤 悠 希 『三国志演義』における呂布の忠と孝について

西村 真 輝 『三国志演義』における劉備描写の不安定性につ  
いて

王 宝平教授

熊谷 優 希 日本妖怪から見る中国の影響

坏 遊 月 日本のオンライン小説について——中国のオンライ  
ン小説の紹介を兼ねて——

黒川 真 央 旗袍の変遷及び日中の服飾の交流

黒須 玲 於 一九六〇年代日本における中国料理の認識——『中  
国菜』からの考察——

高木 悠 介 『三国志演義』、現代を生きる——『蒼天航路』、  
『レッドクリフ』を中心に——

高橋 一 輝 日中天台宗文化の交流について

永峯 優 太 日本における秦の始皇帝について

林 憧 哉 日本酒における中国古典  
松澤 志 保 中国のモバイルゲーム産業と、日本への進出

小方 伴子教授

北 出 きらら 万特特編『这世界很烦但你要很可爱』の翻訳

花安 紗 暉 林語堂「孔子在雨中歌唱」等の翻訳

平澤 美 和 曹文軒「海里的船」の翻訳

芦刈 優 亜 阿来「三只虫草」の翻訳

坂本 侑 生 「干禄字書」の通字・俗字と異体字について

原口 貴 行 鬼求代の研究——日中の「繪鬼」の比較を中心に——

梶谷 成 海 薛舒「相遇」の翻訳

松田 かな 曹文軒「蝙蝠香」の翻訳

安松 里 菜 張魯備「风筝」の翻訳

山田 咲 季 淮上「破云」の翻訳

高澤 浩一教授

北井 蒼 空 鍾繇について

小林 加 奈 米芾について

齊藤 まどか 龍門造像記について

鈴木千尋 聖武天皇について

高橋 亜寿美 張瑞図について

外側 紗理 『鄧石如』について

野村 奈々 隸書「曹全碑」について

原 向日葵 王鐸について

藤田 有沙 懷素について

藤田 美裕 蘭亭序について

松田 安慈 『小野鶯堂』について

**高橋 佑太非常勤講師**

足立 みんと 楊峴の書法の変遷 〓五十代後半から晩年まで〓

富岡 彩 夏 甲骨文と金文からみる象形文字の成り立ち 〓

十二支の象形文字を例に 〓

長谷川 翔 梧 趙孟頫の題字篆書について

三代川 雄 哉 金農の書作品における点画の省略について

梅坂 いくみ 時代の変化が北魏の書に与えた影響

佐藤 可愛 呉昌碩の筆法 〓石鼓文の臨書の推移から 〓

須藤 陽 恵 毛公鼎に見られる特殊な文字についての考察

**田中 正樹教授**

吉原 千晶 魯迅の抱える寂寞と「狂人日記」が生まれるに至るまで

清水 玲 奈 『三国志演義』の虚実と映画「レッドクリフ」へ

の影響 〓赤壁の戦いを中心に 〓

中 寫 郁 実 新一万円札から見る日本のこれから

堀 江 良 雅 太極拳の多様な可能性

矢ヶ部 壮 流 宋代の茶文化と中世日本の茶道の比較研究

**永井 鉄郎特任教授**

荒 木 寛 人 『在日本・風物志』の翻訳 〓副論文「伝統的工芸品産業の現状について」 〓

田 中 優 奈 『知日56 便利店全解説』の翻訳 〓コンビニエンスストアにおけるサービスの变化と今後の展開 〓

村 田 萌 『知日 日本製造力！ Made in Japan』の翻訳 〓中国人から見た日本のモノ 〓

〓中国人から見た日本のモノ 〓

荒 野 文 花 『知日 和制汉语』の翻訳 〓中国人母語話者の和製漢語に対する意味推測 〓

猪 瀬 香 織 中国語と日本語のオノマトペの比較

藤 倉 湧 生 中国の食品販売に関する書籍の翻訳

小 瀧 満 『知日 日本製造力！』の翻訳

中 村 光 希 「中國和日本…一五〇〇年交流史」の翻訳

副論文…中国人から見た日本人について

福 島 一浩特別招聘教授

安 齋 綾 夏 卒業制作…臨「継色紙」、副論文…継色紙にお

けるまで

る美的効果

石見 仁唯奈 高野切第一、二、三種における書風の相違

片野 百恵 制作「臨 高野切第一種」 副論文「藤原佐理の書と人柄」

河端 悠 菜 藤原行成の生涯と書へのまなざし

北島 楓 仮名の発展に関わる古筆の比較

柴田 ひより 色紙型の古筆における面構成の工夫

関 思 葉 俳句における感情描写と本阿弥切における感情表現

船越 愛 関戸本古今集における文字群と行の美

山田 裕 愛 制作「臨 中務集」、副論文「西行の人と書について」

稲木 夏海 寸松庵色紙、副論文空海の生涯と書

倉見 陽和多 かな古筆に現れた貫之の歌とかな美について

小山 優 良寛の書

竹下 結 菜 制作「臨 関戸本古今集と短歌」創作「副論文」斎藤茂吉の生命感の躍動と書

平田 未 柚 制作「臨 寸松庵色紙 創作 与謝野晶子より歌三種」、副論文「与謝野晶子の歌三首と寸松庵色紙による書表現」

高橋 ひかり 中国神話の形成 ——人はなぜ神話が必要とするのか——

元木 いつみ 日中における『紅樓夢』受容

### 町 泉寿郎教授

大倉 憲 吾 近藤勇が史跡と風説留に語り継がれる理由

江川 詩 織 堀直虎を祀ることで須坂市を支えてきた奥田神社について

江口 万 喜 渋沢栄一からSDGsについてどのようなことが学べるか

片桐 悠 介 持続可能社会に向けた渋沢栄一の論語解釈

加藤 萌 花 日本における漢字の有用性、使用意義

菅野 貴 仁 「教育者としての佐藤一斎」 ——令和時代の教育に通ずるもの——

関澤 凱 友 有職故実の学問の復生

中川 琴 乃 富士谷御杖の「言霊」に関する学説について  
二榎木 弥 由 日本漢学の視点から見る茶道の近代化

### 郎 潔非常勤講師

阿 部 絵美理 「こちらゆかいな窓ふき会社」の翻訳、ロアルド・ダールとクエンティン・ブレイクの作品について翻訳をした際に改めて気づいた中国語文法の特徴

### 牧角 悦子教授

儀 間 あみか 曹操の楽府 「新」の所以

井川 和 海 踏雪之访(他一篇)  
櫻井 喜 弥 2019中国年度小说『一个老百姓』『臭弹』『春风  
路74号』『茶碗』『稻草』『原涼』

島崎 華 澄 陳信傑『柴猫、夢的浮艇與德魯伊』所収「故事開  
始」、「柴猫、夢的浮艇與德魯伊」、「峻堯與明尉」  
の邦訳

仲田 莉 奈 花木蘭から読み取る女性解放 — デイズニー映画  
『ムーラン』に込められたメッセージ —

佐々木 実 和 日中における化粧行動の変化と今後の展望 — 時  
代背景の考察を中心に —

鈴木 天 芳 児童文学小説「蝙蝠香—曹文軒」翻訳  
福田 真由香 中国におけるファンダム活動 — 創造營2021を手  
がかりに —

横井 瑠 海 中国語短編小説「平凹的短小説」に含まれる「倒  
流河」の翻訳

権藤 百 香 悪意ある商標登録者との戦い方 — パロディ商標  
を添えて —

阿部 瑛 乃 日本におけるクラフトビールの市場動向と価値に  
ついての考察

小島 優 奈 着物文化の変遷と漢服運動の比較

小西 莉 央 日本と韓国のキムチの比較研究  
齋藤 あかり オタク女子とSNS

堀井 正太郎 ドキュメンタリー『追跡 日本式コーヒー文化』  
と日本におけるコーヒーショップと地域化した  
コーヒーの考察

渡邊 史 龍 現在までの日本におけるコーヒー需要目的の変化  
江藤 茂博教授

菅生 ひかり 映画における日本語・英語の表現方法の差異と文  
化的背景 — 邦題と日本語字幕の分析から —

鈴木 悠 亮 『むしょくせいかつ』  
中嶋 梨 乃 宮崎駿が魔女の宅急便で伝えたかったこと — 原  
作との比較から —

柳田 純 物語を効果的に伝える映像表現 — 「響け！ユー  
フォニアム」における光や構図の役割 —

横田 理 紗 コンテンツツトリズムの現状と展望  
渡邊 佳 樹 ジブリ映画「もののけ姫」から読み解く人間と自  
然の関わり方

和泉澤 優 奈 小説「Check!」 エンターテイメントに変わる物  
語

## 都市文化デザイン学科

ヴィジュアル・マテリアス専任講師

宇木 健 史 Local experiences, Global Connections: Coffee

Culture in Japan.

鷓沼奈穂 「BTS」の戦略

川北華 エンターテインメントが社会問題を扱う必要性

菅野明日美 サマーウォーズ論 ～十年経った今分かること～

久羽美里 『羅小黑戦記』における自然と文明の共生 —『も

のけ姫』との比較—

小林麻瑚 YouTube論

鈴木脩斗 「摂ルト棄テル」

田中亚衣菜 満ちるまなこと夏の夢

松永春香 2.5次元ミュージカルの定義と二次創作的想像

—「ミュージカル『テニスの王子様』」を通して

米屋高平 映画または漫画について研究。

岡野裕輝 特撮ヒーロー番組における敵の在り方 —仮面ラ

イダーは何と戦ったのか—

佐々木満里 デイズニーとジブリから見る擬人化表現の可能性

三宮真央 テレビアニメ『おそ松さん』論 —ファンによる

受容姿勢の特徴と、リポートの視点から—

### 谷島 貫太専任講師

秋本祐真 ホームページ制作報告書

荒井彩花 ネットロアの怪談における怪異と女性

井草太一 現状のVTuberの運営形態の違いとそれによる活

動内容の差異の分析

岩崎未歩 ミュージカル「テニスの王子様」におけるキャラ

クターと役者の乖離

内海里菜 遊郭をベースにした死生観について

遠藤菜月 東京デイズニールランドと新型コロナウイルス感染

症の共存

音田恭兵 炎上の記憶に対する対処法

加藤豪 バーチャルユートバーの内面・外面から見る

バーチャルユートバーの形態

小島龍慶 第二次アニメブームとアニメ産業の変革

齋藤旭 バーチャルシンガー花譜からみる「バーチャル」

コンテンツの可能性

齋藤陽 推しとオタクの関係性 —アイドルがもたらす経

済的、文化的、グローバル的可能性—

櫻田都 『黒子のバスケ』から見るキャラクター性と流行

アニメーション映画における「食」のシーンの重

要性

砂長昂宏 ライトノベルとネット小説における作品の変化と

比較

福田玲央 ストリートスナップと流行 —原点から現在にか

けて

福地浩然 Zettaiの「くだらない」文化の分析

### 堀野 正人教授

荒井萌乃佳 世界遺産と観光 —世界遺産の本当の役割と遺産



を守る対策)

大山 愛姫 ポケットモンスターが与える観光地への影響

岡部 成美 原子力発電所事故からの復興 〈ダークツーリズムの観点から〉

加百 瞳 自然観光資源の現状と課題 ―保全・保護を中心に―

荻部 優花 デイズニーオタクとアニメオタクの文化の相違性と類似性

工藤 かな 民泊の現状についての問題と考察

河野 一步 観光のモチベーションについて

小袋 華乃子 横須賀における民話の観光資源化の可能性

地主 真尋 アニメ聖地巡礼における観光者の観光行動、聖地や作品制作側の取り組みについて

庄司 萌花 自然災害からの観光復興 ―東日本大震災を事例として―

高橋 歩美 スポーツツーリズムの現状と課題について

高橋 千明 推しの違いによる観光スタイルの違い

武井 杏奈 メディアによって話題になった観光地のその後と持続化について

堤 茜 寧 神社界のインターネット進出とジレンマ ―現代におけるオンラインサービスの事例研究―

中村 朋哉 日本における贈与の文化とおみやげとの親和性について

林 綾音 観光とイメージ付与

袋井 紅葉 観光産業におけるホスピタリティの実態 ―観光客と労働者の関わり方―

万木 恵 NPO法人ならしの子ども劇場の持続可能性

宮崎 衷輝 観光におけるシェアリングエコノミーの今後

吉野 晴香 ゲームによる観光について

松本 健太郎教授

田口 美慧 ジェンダー論から見る「時をかける少女」

阿部 さくら デイズニーが描写する家族の変容 〈多様化する家族像〉

田名網 裕太 映画『ドラえもん』の「はじめ」描写の変化

藤原 萌実 魔法少女と視聴者の関係性 ―社会背景と成長過程の視点から―

山田 竜大 物語における「フラグ」の役割 〈読者の視点の変容とナラトロジー〉

山本 晃生 デジタルを活用した教育環境の再考 ―流動的社会が引き起こすICT教育の加速―

渡邊 竜之介 アニメの二次創作活動としての聖地巡礼 〈聖地というテーマパークとアニメの表象〉

宮崎 梨乃 日本における子ども向けホラー作品によるしつけ

ホラー作品が与える子どもへの影響とは

- 吉永亮介 リリックビデオにみる歌詞の表現 視聴覚で受け取る歌詞とその効果
- 井上 あかり 炎上広告における月経の表象 生理用品広告が意味づける月経と有経女性
- 岡崎 温佳 ゲームのカジュアル化と多様化 スマートフォン及びインターネット環境の普及の観点からみて
- 川尻 琴音 体感型推理ゲーム「名探偵 刑部大輔の事件簿」謀略の招宴」実施報告書
- 齋藤 光之介 ウェブ小説の文体にプラットフォームが与えた影響について —— ライトノベルの系譜から
- 志野 琴波 「女性向け」の表現がもたらすコンテンツのジェンダー 女性消費者を中心に
- 須藤 玲奈 オリジナルを演じる2.5次元ミュージカル 補強されるリアリティと世界観
- 奈良 弥志乃 二〇二一年度公演「名探偵刑部大輔の事件簿」謀略の招宴」実施報告書 担当…脚本班
- 由利 敬蔵 体感型推理ゲーム「刑部大輔の事件簿」謀略の再演」報告書